

道徳科学習指導案

2年A組（男子23名、女子15名、計38名）

指導者 長谷川 香

1 主題名 互いのよさを生かす [内容項目B 相互理解、寛容]

2 教材名 「たすきとポンポン」（「中学道徳2 とびだそう未来へ」教育出版）

3 主題設定の理由

内容項目B－9は、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、様々なものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び自らを高めていくこと」をねらいとしている。様々な物事に対して自分の考えや意見を人に伝えることは、よりよい人間関係を築き、相互理解を深めるために大切なことである。しかし、人間は自分なりの角度や視点から物事を見ることが多い。互いが理解し合い、相手の考えや立場を尊重することができれば、男女間であっても望ましい人間関係を築くことができると考える。しかし、中学生の生徒は異性に対して敏感になる発達段階にあることや、幼い頃からの思い込みによって性別で役割分担をしてしまうことが多い。そこで、性別が役割分担をする要素ではなく、個人の意欲や適性等によることを理解させる必要があると考え、本主題を設定した。「男性も女性も意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる社会」が求められる今の時代だからこそ、改めて生徒一人一人に性別の違いを超えて理解し合い、よりよい人間関係を作ることの難しさや素晴らしさについてじっくりと考えさせたい。

本教材は、運動会の係決め場面が描かれており、主人公の由紀が自分の希望と性差による役割分担で悩んでいるという設定になっている。由紀が「応援団長を目指すべきか」、「チアリーダーになるべきか」を悩んでいる場面では、由紀の葛藤や悩みに共感しながら判断の是非について活発に意見交流を行いたい。また、様々な登場人物や違う性別の立場で考える場面を設け、お互いのよさを生かす関係を作っていくためには何が大切なのかをじっくり考えさせたい。

生徒たちはこれまで、保健体育の「生殖機能の成熟」の単元で男女の身体的な発達や特徴を学習し、性差による身体的な違いについて理解を深めた。また、家庭科の「家庭の役割」の授業では、家族の一員としての役割についても学習した。しかし、性別の違いを超えてよりよく生きることの素晴らしさについて考えるまでには至っていない。そこで、本時では、性差に関わる現実的な課題を取り上げ、じっくりと考えさせることにした。由紀の葛藤や悩み、判断の是非について個人で考えた後、学級全体で意見交流を行う。多様な視点から語り合うことで、性別の違いを超えて、よりよい人間関係を築くことの難しさや素晴らしさについて考えを深めさせたい。また、それぞれの性の立場から多面的・多角的に考え、話し合う活動を通して、将来、男女が相互の特性を生かしながらお互いに尊重し合って生きていこうとする態度を育てたい。

4 研修主題との関連

本学級は、自分の意見や考えを積極的に発言できる生徒が多い。そのよさを生かし、さらに生徒同士が関わり合い、全ての生命を尊重することの素晴らしさについて考えを深めることができるよう、次のような手立てを工夫した。

(1) ねらいに迫るための板書の工夫

教材の内容や授業の流れ、生徒の発言をキーワードで簡潔に板書し、分かりやすく示すよう心がける。特に、生徒の考え方、感じ方の違いや多様さを構造的に板書で示し、板書を通して生徒の意見交流の過程が目に見えるようにしていきたい。この手立てにより、生徒が一層考えを深め、さらには発言する意欲も高まることを期待している。

(2) 関わり合いから考えを深めるための工夫

由紀は、「応援団長を目指すべきか」、「チアリーダーになるべきか」を考える場面では、赤と青のカップを用いて自分の考えを示す。自分や友達の立場を可視化することで友達との共通点や相違点を見付け、小グループや学級全体での意見交換が活発に行えると考える。また、ワークシートには「応援団長を目指すべき」、「チアリーダーになるべき」の両方の立場で記入できるようにしておき、話し合いの途中で立場を変えることができるようにする。主人公の葛藤や悩みについて多様な視点から語り合うことで、性別の違いを超えてよりよい人間関係を築くことの難しさや素晴らしさについて考えを深めさせたい。

5 本時の学習

(1) ねらい

- 役割について多様な感じ方や考え方に接することで、望ましい人間関係を築き上げていくために、一人一人のよさを生かし、性別に関わらず、互いを尊重しようとする態度を育てる。

(2) 展開

★…研修主題との関連における教師の働きかけ

◆…支援を必要とする生徒に対する手立て

	学習活動	主な発問や予想される生徒の反応	指導上の留意点【評価】
導入	性別で役割を決めていることはないだろうか。 全体 (5)	- 男子は代表、女子は補佐 - 男は仕事、女は家事や子育て - 男子は力仕事、女子は軽作業 - 男は短髪、女は長髪 - 男はズボン、女はスカート	性別と役割について考えさせることで、ねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。
展開	○資料を範読する。(5) ○由紀は応援団長を目指すべきだろうか、チアリーダーをやるべきだろうか。 個 グループ 全体 (15) ・赤と青のカップを机の上に立て自分の立場を示す。 赤→団長 青→チアリーダー ・学級全体で意見交流を行う。 ・動作化を行う。 ○役割に性別が関係あるだろうか。全体 (5) 赤と青のカップで示す。 ◎男女がお互いのよさを生かす関係を作っていくために大切なことは何だろうか。 個 ペア 全体 (15) ・ワークシートに記入する ・ペアでの意見交流を行う。 ・学級全体での意見交流を行う。	<応援団長を目指すべき> ・周りからどう思われようと自分がやりたいことを貫くべきだから。 ・由紀には人をまとめる力があるから、応援団長にふさわしい。 ・応援団長は男子になるものだと思いつけるのはおかしいと思うから。 <チアリーダーをやるべき> ・男子のチアリーダーって見たことがないから。 ・チアリーダーは女子の方が向いているし、男子にはできないと思うから。 ・男だから、女だからという理由で役割を決めつけない。 ・お互いのよいところを知る。 ・男らしさ、女らしさ、自分らしさを大切にする。 ・自分や他の人の個性を尊重することが大切。 ・相手のよさを理解すること。 ・相手をよく知ること、知ろうとする気持ちが大切。 ・男女がそれぞれ得意とする分野が確かに存在するよ。 ・父は家事が得意。家庭で自分のよさを生かしている。 ・男女問わず、努力して人間性を磨いていくことが大切。	★自分や友達の立場を可視化することで友達との共通点や相違点を見付け、学級全体での意見交流が活発に行えるようにする。 ★「なぜそう考えるのか」と理由を問い返すことで判断の根拠を多面的・多角的に捉えることができるようにする。 ◆動作化を行い、男女の立場を変えて考えることで、性別と役割についてより深く考えることができるようにする。 ・両方の意見を出し合い、互いの考えのキーワードを提示する。 ・1人でじっくりと考えワークシートに記入する時間を設けることで、自分の考えを整理させる。 ★生徒同士の対話や意見交流の中で出た意見を板書に構造的にまとめる。 ・意図的指名を行い、多様な考えを広める。
終末	○今日の授業で考えたこと、学んだことを書き、発表する。 個 全体 (5)	・男女、それぞれのよさが生きる学校や学級にしたい。 ・学校生活の中で性別による役割を決めつけないようにしたい、見直したい。 ・「自分らしさ」や性別による「らしさ」も大事にしたい。 ・自分のよさを生かして活躍できる社会を作りたい。	・日常生活を想起しながらじっくりと考えさせる。 性別と役割の関係について考え、男女が望ましい人間関係を築き上げるためにはどうしたらよいか、自分との関わりで多面的・多角的に考えている。 【発言・ワークシート】

(3) 授業の視点

- ・男女が望ましい人間関係を築き上げていくために大切なことについて考えを深めるために、動作化を取り入れて意見交流を行ったことや、発問構成を工夫したことは効果的であったか。